

[科目名] 監査論Ⅱ		[単位数] 2 単位	[科目区分] 専門科目 展開科目
[担当者] 紫関 正博 Shiseki Masahiro	[オフィス・アワー] 時間:授業の開始時に提示 場所:研究室(512)		[授業の方法] 講義
[科目の概要] 監査(または財務諸表監査)制度は、会計制度を通じて企業が作成した会計文書(財務諸表)が適正であるかをチェックする社会制度の一構成要素である。こうした役割を監査が担っているにもかかわらず、なぜ粉飾決算は繰り返されるのかを想起しておく必要がある。その原因の1つは、現代の会計がフェア・バリュー(Fair Value)を導入し、会計において将来という概念が採用されることによって、会計文書(財務諸表)上で将来に関わる会計事象(会計の「用語」と「数値」(金額))が含まれていることにあるように思われる。確かに、監査を実施することで、企業が会計法規や会計基準に基づいて適正な財務諸表を作成したかをチェックできるが、将来に関する会計事象(会計の「用語」と「数値」(金額))に対してはどのように信頼性を付与すればよいであろうか。現在、こうした問題が監査の領域で生じている。 「監査論Ⅱ」では、現代の監査における課題を念頭に置きながら、監査を実務的側面から学ぶ。本講義では、監査実務を主なテーマとし、公認会計士(監査法人)による監査契約の締結から監査意見の形成までの監査プロセスを考察する。また、現代の監査手法として用いられている監査リスク・アプローチを取り上げ、監査とリスクが如何なる関係にあるのかという観点から、公認会計士(監査法人)によって行われる現代の監査実務を学ぶ。講義では、内部統制と監査、監査上の主要な検討事項(KAM)、監査報告書の役割の他、監査の品質を維持するための近年の監査制度の改革を学ぶ。また、会計不正の事例についても取り上げる。			
[「授業科目群」・他の科目との関連付け]・[なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか] ・他の科目との関連付け 監査は財務情報を取り扱うことから、「監査論Ⅱ」は、「監査論Ⅰ」と他の会計科目(会計学基礎論、財務会計論Ⅰ・Ⅱ、財務分析Ⅰ・Ⅱ、財務管理など)と密接な関係がある。 ・学ぶ必要性と学ぶことの意義 会計は、ビジネスの言語として、ビジネスパーソンに必須の知識となっている。このことから、会計監査を理解することは、財務諸表を社会に公表する意義を再認識する上で有益である。主として、上場企業では、内部統制が制度化され、内部統制監査が導入されたことで、ビジネスの現場に監査が登場する場面も増えている。近年では特に、監査法人で働く会計専門職業人のみならず、財務諸表を作成する企業に関係する人々も、会計監査を十分に理解することが必要といえる。			
[科目の到達目標(最終目標・中間目標)] (中間目標) 財務諸表監査を行う公認会計士(監査法人)の視点から、監査実務を理解する。 (最終目標) 現代の監査における課題を考え、現代会計の下での監査の意義を理解する。			
[学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫] マイクを調整し、しっかりと音声を伝え、声を聞き取りやすくするように心掛けます。説明の仕方や話し方の工夫にも努めます。授業では極力教室の前方で受講し、積極的に授業に参加して下さい。			
[教科書] 伊豫田隆俊・松本祥尚・林隆敏 著『ベーシック監査論(九訂版)』, 同文館出版, 2022 年。			
[指定図書] 山浦久司 著『監査論テキスト[第9版]』, 中央経済社, 2024 年。			

〔参考書〕 長吉眞一・伊藤龍峰・北山久恵・井上善弘・岸牧人・異島須賀子 著『監査論入門（第6版）』，中央経済社，2024年。 蟹江 章・井上善弘・栗濱竜一郎 編著『スタンダードテキスト監査論（第6版）』，中央経済社，2022年。																							
〔前提科目〕 前提科目はなし。「監査論Ⅰ」，「会計学基礎論」，「財務会計論Ⅰ・Ⅱ」(できれば，他の会計関連科目も)を履修していることが望ましい。																							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) ・授業の参加度を確保するため，3～5回程度，小課題を提出してもらう。期末試験の他に，小テストを行う。小テストの実施日は，授業内および掲示で伝達するので，注意すること。																							
〔評価の基準及びスケール〕 ・小課題(10%)，小テスト(20%)，期末試験(70%)によって，評価する。 <table><tr><td>(評価)</td><td>A: 80%以上</td><td>GPA</td><td>4.00</td></tr><tr><td></td><td>B: 70%～80%未満</td><td></td><td>3.00</td></tr><tr><td></td><td>C: 60%～70%未満</td><td></td><td>2.00</td></tr><tr><td></td><td>D: 50%～60%未満</td><td></td><td>1.00</td></tr><tr><td></td><td>F: 50%未満</td><td></td><td>0.00</td></tr></table>				(評価)	A: 80%以上	GPA	4.00		B: 70%～80%未満		3.00		C: 60%～70%未満		2.00		D: 50%～60%未満		1.00		F: 50%未満		0.00
(評価)	A: 80%以上	GPA	4.00																				
	B: 70%～80%未満		3.00																				
	C: 60%～70%未満		2.00																				
	D: 50%～60%未満		1.00																				
	F: 50%未満		0.00																				
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 ・初回の授業の際に，評価方法の詳細を説明するので，必ず出席すること。 ・受講生の学習理解度，授業の状況などにより，授業スケジュールに変更が生じる場合もある。 ・「監査論Ⅱ」の講義では，受講者自らが「公認会計士」の職務を担当している意識を持ち，現代の会計と監査の関係を考えてほしい。 ・授業では，監査特有の専門用語が登場するので，覚えることも多い。理解したことを定着させるためにも，予習と復習をして授業に臨むこと。予習の際には教科書，講義レジュメを読み，授業に出席すること。 ・他の学生の迷惑になる行為は慎むこと。特にひどい場合には，厳しく注意します。																							
〔実務経歴〕 該当なし																							
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル																							
第1回	テーマ(何を学ぶか):ガイドンスと監査制度 内 容:ガイドンス, 会社法監査と金融商品取引法監査を学ぶ 教科書 第2章, 講義レジュメ																						
第2回	テーマ(何を学ぶか):公認会計士と監査法人 内 容:公認会計士制度と監査法人制度を学ぶ 教科書 第3章, 講義レジュメ																						
第3回	テーマ(何を学ぶか):監査意見形成のプロセス① 内 容:監査契約, 監査計画, 経営者の主張, 監査要点を学ぶ 教科書 第4章, 講義レジュメ																						

第4回	テーマ(何を学ぶか):監査意見形成のプロセス② 内 容:監査証拠, 監査手続(監査技術)を学ぶ 教科書 第5章, 講義レジュメ
第5回	テーマ(何を学ぶか):監査リスク・アプローチと監査戦略① 内 容:監査リスク・アプローチの構成要素と監査リスクを学ぶ 教科書 第5章, 講義レジュメ
第6回	テーマ(何を学ぶか):監査リスク・アプローチと監査戦略② 内 容:監査上の重要性, 重要な虚偽表示のリスクを学ぶ 教科書 第5章, 講義レジュメ
第7回	テーマ(何を学ぶか):リスク評価, リスク対応および監査の完了① 内 容:監査戦略と監査計画を学ぶ 教科書 第6章, 講義レジュメ
第8回	テーマ(何を学ぶか):リスク評価, リスク対応および監査の完了② 内 容:リスク評価とリスク対応を学ぶ 教科書 第6章, 講義レジュメ
第9回	テーマ(何を学ぶか):監査報告書と情報提供機能① 内 容:監査報告書の構造を学ぶ 教科書 第7章, 講義レジュメ
第10回	テーマ(何を学ぶか):監査報告書と情報提供機能② 内 容:監査意見の種類, 継続企業の前提の監査を学ぶ 教科書 第7章, 講義レジュメ
第11回	テーマ(何を学ぶか):監査報告書と情報提供機能③ 内 容:監査上の主要な検討事項 (KAM) を学ぶ 教科書 第7章, 講義レジュメ
第12回	テーマ(何を学ぶか):開示情報の多様化と保証機能 内 容:内部統制監査制度, 四半期レビュー制度 教科書 第8章, 講義レジュメ
第13回	テーマ(何を学ぶか):監査の品質 内 容:監査(事務所)における品質管理, 会計エンフォースメント 教科書 講義レジュメ
第14回	テーマ(何を学ぶか):会計不正の事例 内 容:近年の会計不正事件のケーススタディ 教科書 講義レジュメ
第15回	テーマ(何を学ぶか):総復習 内 容:講義内容の総括 教科書 講義レジュメ
試験	